



# 微笑

第52号  
令和2年4月15日  
発行者  
綾瀬市身体障害者  
福祉協会

## 新年度に向けて

綾瀬市身体障害者福祉協会の令和二年度の始まりですが、今年の二月頃から新型コロナウイルス感染症の広がりにより、今年のオリンピックも延期になり、市や県、社協などの会議が中止になっての公民館や福祉プラザが利用できない状態です。その為身障協会の総会も中止の方向です。この会報が皆さんに届く頃は、今の騒動もある程度収まっていると良いのですが？

当協会だけでなく、今年度は市や県、市社協などの多方面の行事との兼ね合い、行事の予定も狂い当協会のバス旅行は中止になってしまいました。楽しみにされていた会員の方々には誠に申し訳ありません。代わりの行事を考えてはいたのですが、各部会の方々をお願いしました。今年度は行事の縮小になりましたが、役員は昨年と同じです。から皆様の意見をどんどんお寄せ下さい。今後は予定通り行われることを祈っています。



## ボランティア連絡会の交流会

(新年会)

皆さんが毎年とても楽しみにしているボランティア連絡協議会主催の交流会(新年会)が、今年度は二月九日(日)に綾瀬市オーエンス文化会館・小ホールで開催されました。

暖かな陽気に誘われて身障協会からも三十六人が参加しました。他にも手をつなぐ育成会やあがむの会などの団体などが招待されたり、活動発表をしてくれるグループの皆さんも参加されて盛大に行われました。



坂井さんの楽しい司会で定刻通りに交流会がスタート。ボランティア連絡会の会長、来賓の古塩市長や社協会長の挨拶後、今回は四月から活動を開始される「おでかけ綾瀬」の皆さんが壇上へ上がって活動の紹介がありました。微笑五十号でも紹介しましたが、外

出時に介助が必要な高齢者や障害者などの外出支援として、介助付の個別輸送サービスを提供する福祉有償運送の市民グループです。また、利用できるのは、身体障害者や要介護認定者、要支援認定者、知的障害者などに限られる登録制サービスで、外出を支援する民間の介護タクシーと条件付き無償送迎サービスの中間に位置し、運送対価はおおむねタクシーの半分程度が上限とされています。

お弁当が配られて、会場のあちらこちらから笑顔や笑い声が…。食事をしながら、活動発表(手話サークルあやの会、レアレア オリオリ、綾瀬でオペラを!の会、ソノレウィンドオーケストラ)を楽しみました。今年の活動発表もとても盛り上がりました。

最後は毎年恒例のビンゴゲーム!今回も綾瀬西高校の生徒さんがビンゴゲームを手伝ってくれて、数字が発表さるたびに会場から歓声が上がっていました。春のお花の鉢植えや日用品など皆さんお目当ての景品をゲットしよう!この日一番の大盛り上がり!楽しい時間はあっという間に早く過ぎてしまい閉会となりました。

今回も交流会を主催して下さったボランティア連絡会の皆さんには、楽しい一時を過ごすことが出来て感謝しています。そして、半年後の夏の交流会も楽しみにしています!



## 「光綾公園の再整備」の ご意見募集

皆さんもバラ園や野球場がある光綾公園が、昨年の秋から六年がかりで再整備が行われていることは既にご存じのことと思います。

光綾公園は一九七六年にオープンした市内で最も古い綾瀬市立の都市公園で、バラ園・野球場・日本庭園・大型遊具などもあります。成長した樹木による暗がり・古くなったトイレ・バラ園の柵・ろ過循環装置が故障して水が無くなった池や小川など公園全体の老朽化が課題視されていました。

整備工事は、北側エリアから進められて多目的球場のオープンは今和四年度、バラ園のオープンは令和六年度が予定されています。また、北側エリアの整備後に南側エリアの整備が行われ、令和七年春に全面供用開始される予定になっています。



再整備の目玉で令和六年度にオープン予定のバラ園は、バラの専門家に監修を依頼して現在の二十八品種から七十四品種に増やして魅力的なバラ園を整備。また、既存井戸水の活用や自家

用発電機の設置により、災害時でも水洗トイレが使用でき、車中泊の避難者にも対応できる機能も備えています。バリアフリー関連に関しては、「多目的トイレ」と「身障者駐車場（北側・八台／南側・六台）」が設けられること以外は具体的なことは決まっていないうようなので、身障協会からも障害者が利用しやすい光綾公園になるように要望していると考えています。

つきましては、光綾公園再整備に關しまして皆さんからのご意見やご要望などがありましたら、西川会長までご連絡頂ければと思います。  
※「光綾公園再整備」に関する情報は、綾瀬市のホームページからも見ることが出来ます。



◎ 新聞記事

高齢化で進むバリアフリーの普及率は過半数に

東京新聞 二月二十五日

単純に高齢者人口の増加に留まらず、その中でも足腰が弱った人の数が増え、平均世帯人数が減少、さらには既存住宅の建て替えやリフォームへの動きの活発化など、多様な条件の重なりから、高齢者などに配慮した住宅設備、いわゆる「バリアフリー」への注目が集まっている。

実際に、どの程度バリアフリーは浸透しているのだろうか。二〇一八年の時点では現在居住者がいる住宅のうち、

五十・九%で何らかのバリアフリーが導入されているとの結果が出た。

主要項目別に見ると、手すりの普及率は比較的高く、これが全体のバリアフリー率を押し上げていることが分かる。一方で浴室への配慮や段差の無い屋内は二割で前回調査分からは減少。車いすに関する配慮の浸透割合は一台でしかない。

車いすへの配慮は利用している高齢者などそのものが少ないがための低い値とも考えられるが、浴室や段差への配慮は高齢者などがあるならば大抵の場合において必要な設備となる。もう少し高い整備率への上昇を望みたいところ。

一方、バリアフリーの整備率を住宅の建て方別でみると、大きな差異が確認できる。一戸建てではバリアフリーがセールスポイントとして有効なことから、全体と比べて普及率が高めなのは理解できる。また既存の一戸建て住宅の保有者も、自分の家だからこそリフォームなどで対応する事例が多く、また将来も現在の住宅に住み続けることから、前もって整備をしておくことも多々ありうる。

気になるのは、「高齢者対応型共同住宅」とうたっている共同住宅で、実際に設備が備わっているのは四分の三足らずに過ぎない実情。例えば浴室への配慮が四割足らずなど、「名前に偽りあり」と指摘されても仕方のない共同住宅が多数確認できること。「高齢者対応型共同住宅」の明確な定義はなく、あくまで住宅側でそのセールス文句を使っているだけで、実際には高齢者などのための設備は無いとの住宅が二十

六・二%にも達しているのは、「看板に偽りあり」と評されても仕方がない。確率論的に四分の三ほどのくじで住宅を選択するのは、少々リスクが高い感はある。

仮にそのような必要性に迫られたとしても、単に「高齢者対応型共同住宅」的な表記だけで飛び付くことなく、その内情を精査し、必要十分な設備が備わっていることを確認した上で、選択肢に加えるようにしたいものだ。



トイレ



洗面



車いす客は「事前連絡を」  
無人化推進八十三駅で要請

東京新聞 二月三日

JR東日本で一日一万人以上が乗車する駅のうち、関東の都市部にある八十三駅で、乗降に介助が必要な車いす利用者に事前連絡を求めていることが分かった。合理化により駅員不在の時間を設けているため、東京五輪・パラリンピックを機に進むバリアフリー化に逆行するとして、障害者が抗議の声を上げているが、JR東日本は、公益財団法人が運営するバリアフリー情

報サイト「らくらくおでかけネット」や駅の掲示で案内していると説明した。同サイトや駅掲示などで、一八年度に一日平均一万人以上が乗車した管内二百八十七駅を調べると、今年二月の段階で、東京都と埼玉、千葉、神奈川県各県の少なくとも八十三駅で「駅員不在時間がある」とし、車いす利用者には原則、前日に連絡するよう求めている。

鉄道駅の「無人化」がローカル線にとどまらずJR東日本管内の都市圏にも及び、乗降前の連絡を強いられる障害者らが困惑している。人口減を見据えた鉄道事業の合理化は全国的な流れだが、政府が目指す社会のバリアフリー化に向け、大きな課題となりそう。



青い鳥郵便葉書の無償配布

日本郵便株式会社は、重度の身体障がい者及び重度の知的障がい者に、「青い鳥郵便葉書」を無料で配布いたします。

\*対象 身体障がい者（1・2級）

\*受付期間 4月1日から6月1日

\*配布枚数 一人20枚

4月20日以降（63円葉書）

\*申出方法

(1) 窓口でのお申出方法  
最寄りの郵便局で身体障害者手帳を提示して、申込み書類に記入する。

代理によるご提出でも結構です。

(2) 郵送でのお申出方法

郵便局にある申込用紙に、記入して最寄りの郵便局に郵送すると、自宅に送られてきます。